

修士論文

1. 修士論文のあり方

1-1. 修士論文

修士論文（Thesis）は、自分が提起した研究上の問題について、学術的かつ論理的に議論を展開し、結論または仮説を提示するものです。どのような対象・主題を扱うものであっても、必ず学術的・論理的であることが要求されます。したがって内容には実証性が要求されますので、記述はすべて正確でなければなりません。

論文を書くには、まず自分の選んだ対象と主題に関連する先行研究業績を集めて読み、他の研究者による先行研究をさらに発展させ、これまでの研究を一步進めた見解を述べる必要があります。

次のようなものは、論文として認められません。

- 1 他人の文章からの引用を並べただけのもの。
- 2 他の研究者の意見を無批判に繰り返したものの。
- 3 一冊の本や一編の論文を要約したもの。
- 4 調査の結果や統計などを提示し、分析や議論、意見表明が欠除したもの。
- 5 事実の推移や経過だけを記録し、分析や議論、意見表明が欠除したもの。
- 6 論証できない自分の希望や想像を書いただけのもの。
- 7 他人の研究業績を無断で使ったもの。

他の研究者の文章、意見を自分の論文の中で使用する時には、文章をそのまま引用する場合でも、自分の言葉で言い換えた場合でも、**必ず適切な方法で出典を明示しなければなりません**。他人の研究業績を無断で使用することは**剽窃・盗用**であり、研究者が決して行ってはならないものです。**剽窃・盗用がある場合、修士論文は不合格**となります。大学による懲戒の対象とされることもありますので、決して行わないよう注意して下さい。

1-2. 修士論文の構成

修士論文の一般的な構成要素は次のとおりです。

タイトルページ、目次、序論、本論（複数の章と節で構成）、結論、注記（各章末尾に表記する場合や、脚注とする場合もある）、参考文献リスト。目次と参考文献リストは必ず記載してください。

実際に論文を作成する場合には、指導教員と相談しながら構成を考えることが求められます。

1-3. 論文の分量、書式など

提出部数

正本1部、副本（写し）2部。

分量と執筆言語

本学の修士論文は、日本語では20,000字以上、英文では6,000語以上、中国語文では12,000字以上と定められております。論文は基本的に日本語で執筆することが求められますが、指導教員が承認する場合、母語が英語以外の場合は英語、東アジア文化領域を学ぶ学生で母語が中国語以外の場合は中国語で書くことが可能です。

表紙

正本1部は黒色の綴込表紙に綴って提出してください。写し2部は表紙無しでかまいません。

正本の黒色の綴込表紙には、「修士論文（正本）」の表記とともに論文題目、学籍番号、氏名、提出年月日を表記した紙を張り付けてください。なお、副本（写し）2部も黒色綴込表紙に綴って提出する場合には、正本と明確に区別がつくよう「修士論文（副本）」の表記とともに論文題目、学籍番号、氏名、提出年（元号年と西暦年）月日を表記した紙を張り付けてください。

書式

作成にはマイクロソフトワード（Microsoft Word）等のワードプロセッシングソフトを使用してください。

用紙：A4 サイズ 基本的には縦置き・横書きで使用してください。

日本文化領域では、指導教員の指示により横置き・縦書きも可能です。

余白：縦書き横書きともに、上 35 ミリ・下 30 ミリ・左右 30 ミリ。

行数等：縦書き横書きともに 1 行 40 字×30 行（英語で作成の場合には、行間 1.5 行とする）。

フォント：

日本語で作成する場合

本文：MS 明朝などの明朝体フォントの標準体（強調体や斜体でないもの）、10.5 ポイント。ローマ字部分は Times New Roman あるいは Times Extended Roman、10.5 ポイント。その他のフォントを使用する場合には、指導教員と相談してください。

章や節の表記：本文と同様。MS ゴシックなどゴシック体、10.5 ポイントを使用することも可能です。

ページ番号：下部余白中央 15 ミリの位置に、9 ポイントで入れてください。ただし、タイトルページにはページ番号は不要です。

タイトルページの表記

題目表記：ページの上部に、本文と同様のフォント、14 ポイント、中央揃えで表記してください。ゴシック体を使用することも可能です。書名を入れる場合には二重カギカッコ『...』で表記してください。タイトルが長い場合や副題を付す場合は、適宜区切って、複数行で表記してください。

「愛知文教大学大学院国際文化研究科 修士論文」の表記：題目表記の下部に、本文と同様のフォント 12 ポイントで、中央揃え、2 行で表記してください。

学籍番号氏名等の表記：ページ下部やや上の位置に、本文と同様のフォント 12 ポイント、中央揃え、数字は半角で、表記してください。

提出年月日の表記：ページ下部に、本文と同様のフォント 12 ポイント、中央揃えで、日本の元号年と丸かっこ内に西暦年、続いて月日を表記してください。数字は半角、丸かっこは全角です。

指導教員名表記：提出年月日表記の下に、本文と同様のフォント 12 ポイント、中央揃えで表記してください。

英語で作成する場合

本文：Times New Roman あるいは Times Extended Roman、12 ポイントを、基本的に行間 1.5 行で使用してください。特別なフォントを使用する場合には、指導教員と相談してください。

章や節の表記：基本的には本文と同様ですが、ゴシック体、12 ポイントを使用することも可能です。

ページ番号：下部余白中央 15 ミリの位置に、9 ポイントで入れてください。

タイトルページの表記

題目表記：ページの上部に、本文と同様のフォントを 14 ポイント、太字、中央揃えで使用してください。ゴシック体を使用することも可能です。題目と副題は、各単語（名詞、形容詞、副詞）の最初の文字を大文字にしてください。前置詞は大文字にしません。書名はイタリック体（斜体）で表記してください。

「愛知文教大学大学院国際文化研究科 修士論文」に該当する表記：題目表記の下部に、「Master's Thesis」「Graduate School of International Studies of Cultures」「Aichi Bunkyo University」の 3 行を、本文と同様のフォント 12 ポイントで、中央揃えで表記してください。

学籍番号氏名等の表記：ページ下部やや上の位置に、本文と同様のフォントを 12 ポイント、中央揃えで使用してください。氏名はパスポートに記載されるローマ字名を記してください。

提出年月日の表記：ページ下部に、本文と同様のフォント 12 ポイント、中央揃えで、「January 15th, 2022」のように西暦年と月日を表記してください。

指導教員名表記：提出年月日表記の下に、本文と同様のフォント 12 ポイント、中央揃えで、「Under the Guidance of」と「Prof. Gengoro Komaki」のように 2 行で表記してください。指導教員名は教員が教授の場合には「Prof. Gengoro Komaki」、それ以外の場合には指導教員と相談のうえ「Dr. Gengoro Komaki」などとして適宜表記してください。

中国語で作成する場合

基本的には日本語の場合に準じますが、使用フォント等は指導教員と相談してください。

1-4. その他、論文作成の際の注意点

執筆する場合には、段落表示方法、句読点や引用符等の使い方などに関しての各言語での一般的な規則にしたがってください。英文で作成する場合には、段落開始を示す字下げ（インデント）は 5 スペースにしてください。

引用や出典表記に関しては、「研究倫理・方法論」で学修する方法を基礎とし、指導教員と相談してください。

論文中での参考文献リストの表記方法についても、「研究倫理・方法論」で学習する方法を基礎とし、指導教員と相談して下さい。その際、本文や注記中での出典表示の方法として“(岸田、2019)”のように“著者名、出版年”の形式を取る場合には、参考文献リストは“著者名 出版年 著作名称（あるいは論文名称と掲載雑誌等名称）、出版地：出版社”という形式を取っ

てください。この場合、2行目は適宜字下げ（インデント）して表記して下さい。英文で作成する場合にはインデントは5スペースにしてください。

1-5. 論文の提出

本学では、定められた期日内に、修士論文の正本1部と副本（写し）2部を、次の書類を添付して提出する規則になっています。

1. 所定の書式による学位授与申請書1通
2. 所定の書式による論文目録の正本1部と写し2部
3. 所定の書式による論文要旨の正本1部と写し2部
4. 修士論文提出確認書1通
5. <必要な場合のみ>参考論文の正本1部と写し2部、~~参考論文リスト~~

参考論文とは、修士論文以外の自分の既発表論文で修士論文の部分に取り入れたもの、または自分の既発表論文で修士論文理解のために必須のものです。提出する場合、学位授与申請書と論文目録にも必要な情報を記載しなければなりません。

添付書類の書き方については、指導教員と相談して下さい。

2. 修士論文の審査とその基準

2-1. 審査の方法

- ・ 修士論文は、愛知文教大学学位規程に基づき大学院研究科会議により選出された3名以上の審査委員（主査1名、副査2名以上）からなる審査委員会によって審査されます。
- ・ 修士論文の最終試験は、審査委員による論文審査終了後に、口述または筆記で行います。
- ・ 最終試験の結果として審査委員会は修士学位授与の可否を判断します。この判断に基づき、研究科会議は、会議出席者の3分の2以上の賛成による議決によって修士論文可否を判定します。

2-2. 審査の基準

- ・ 審査委員会は、次の点を基準として論文審査および最終試験を行います。

論文審査

- (1) 先行研究を踏まえた主題・研究課題設定の適切性
- (2) 先行研究の評価検討の適切性
- (3) 調査や資料読解の正確性と適切性
- (4) 議論と展開の論理性と実証性
- (5) 結論や仮説の合理性と執筆者のオリジナリティー
- (6) 出典表記や引用の適切性
- (7) 文章表現や文法の適切性と論文としての体裁の適切性

最終試験（上記に加えて）

- (8) 論文の主題に関連する学識および研究能力を有するか否か
- (9) 高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有するか否か